

	新潟市教育委員会 平成23年7月 定例会会議録			
日 時	平成23年7月26日(火) 午後1時30分			
場 所	市役所 白山浦庁舎 7号棟 4階 白7-405会議室			
出席委員 (6名)	小 嶋 委員長		欠席委員	
	齋 藤 委員			
	山 田 委員			
	佐 藤 委員			
	沢 野 委員			
	鈴 木 教育長			
会議に出席 した職員 (17名)	職・氏 名		職・氏 名	
	教 育 次 長	大塚 俊明	教 職 員 課 長	遠藤 英和
	教 育 次 長 中央図書館長	邊見 敏彦	総 合 教 育 センター所長	吉原 修英
	教育総務課長	前田 秀子	学校支援課長	高橋 恒彦
	教 育 政 策 担 当 課 長	上 所 隆	地域と学校ふれあい 推進課長補佐	本多 芳昭
	学 務 課 長	高橋 豊	生 涯 学 習 センター次長	和田 明彦
	施 設 課 長	芋川 常治	中 央 図 書 館 企画管理課長	内山 正之
	保健給食課長	吉崎 熊勝	中 央 図 書 館 サービス課長	山下 洋子
	生涯学習課長	玉木 一彦		
			教 育 総 務 課 長 補 佐	小 関 洋
		教育総務課主査	杉 本 浩	
その他の 出席者 (名)				

開会	時 刻	午後 1時30分
	宣 言 者	委員長
選挙	議案番号	件 名
付議事件 (4件)	議案番号	件 名
	議案第12号	平成24年度使用新潟市立中学校及び特別支援学校中学部用教科用図書並びに一般図書(特別支援学校・学級用)の採択について
	議案第13号	平成24年度使用新潟市立高志中等教育学校前期課程用教科用図書の採択について
	議案第14号	平成24年度使用新潟市立高志中等教育学校後期課程用教科用図書の採択について
	議案第15号	平成24年度使用新潟市立高等学校用教科用図書の採択について
報告 ( 件)	記 号	件 名
協議題 (1件)	記 号	件 名
		教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価について

## 第1 開会宣言

○委員長 午後1時30分開会を宣言する。

## 第2 会議録署名委員の指名

○委員長 齋藤委員、山田委員 両委員を指名。

## 第3 付議事件

○委員長 議案第12号について、学校支援課お願いいたします。

○学校支援課長 それでは、平成24年度使用教科用図書につきまして、中学校及び特別支援学校中学部用教科用図書並びに一般図書（特別支援学校・学級用）についてですが、5月の教育委員会の諮問を受けて、専門調査員の調査研究を基にした、教科用図書選定委員会での審議を経て、ここに答申いたします。お手元の資料1ページ「平成24年度使用新潟市立中学校及び特別支援学校中学部用教科用図書並びに一般図書（特別支援学校・学級用）について（答申）」をご覧ください。記以下に示されている1から4の観点に基づき、慎重に審議した結果、2ページから17ページまでに記載してある教科用図書が答申されました。研究報告につきましては、お手元の資料18ページ「専門調査員研究報告書」により、順次説明いたします。

はじめは、中学校で使用する教科用図書についてであります。平成24年度使用中学校用教科用図書につきまして、資料にはございませんが、2点説明いたします。1点目は、平成20年3月教育基本法等の改正に対応した、新しい学習指導要領が告示されたことを受け、すべての教科用図書の内容が新しくなり、質、量ともに充実したものとして、新たに文部科学大臣の検定を得ているということです。

2点目は、中学校の新しい学習指導要領の全面実施が、平成24年度からでございますので、今回の採択教科用図書は、新しい教育課程で、平成24年度から4年間使用するというところでございます。このたび、諮問の基準により、選定委員会が選定作業を行い、今回の答申に至ったわけでございますが、その際、専門調査員の調査研究資料と、県の調査資料を中心に審議していただきました。また、市内中学校から寄せられた研究報告、新潟教科書センターに多くの閲覧者が訪れ、寄せられた意見等も参考にさせていただきました。

それでは、今回の教科書採択に係る専門調査員の研究の経緯について、簡単にご説明いたします。専門調査委員会は、平成23年5月24日に第1回の会合が持たれました。その場で、教

科用図書採択の基本方針、諮問内容等を確認し、その後、教科部会ごとに複数回、調査研究の会を開催し、報告書としてまとめました。研究方法につきましては、すべての教科において、「学校教育実践上の努力点」から、基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力等の育成、学ぶ意欲の喚起の3点を踏まえております。

また、新潟市の中学生の学力や学習への取組の実態や、各教科指導における課題や重点等を勘案しながら、中学校部会では、20ページに示されているとおり、(2)の①から⑥までの観点を決めて、調査研究にあたりました。

続きまして、専門調査員研究報告書について、簡単にご説明いたします。国語を例にご説明いたしますので、21ページをご覧ください。各教科とも1に対象教科書の発行者番号と略称、2に観点を示してあります。特に2の(1)に各教科の指導における課題、重点等を四角囲みで示してあります。以上が各教科の説明に入る前までのご報告でございます。

一旦、ここまでについて、ご審議、よろしく願いいたします。

#### ○委員長

ありがとうございます。ここままで、何かご質問、ご意見等はございませんか。

ないようでございますので、私から、少しお話しさせていただきます。今、説明がありましたように、今回の採択する教科書は、すべての教科用図書が新しくなり、新たに文部科学大臣の検定を経ていること。今回の採択は、新しい学習指導要領に基づいて行うこと。平成24年度からの教育課程による4年間の使用であることということです。この点を踏まえると、現在の新潟市の各教科の課題と子どもたちの実態を基に、より適した教科書を採択していくことになります。

また、選定委員会では、実際に使用する立場から、専門的な見地で慎重に協議・検討した結果として答申が作成されております。なお、私たち教育委員も拝見いたしました。答申は各学校から寄せられた研究報告書や新潟教科書センターに寄せられた市民の意見等も参考にしながら作成されています。新潟市の子どもに適した教科書を採択できるよう、広い視野からご審議をよろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、これから教科ごとに答申された内容を基に、採択をしていきたいと思っております。教科ごとの説明をお願いいたします。

○学校支援課長

それでは、お手元の「平成 24 年度使用新潟市立中学校及び特別支援学校中学部用教科用図書並びに一般図書（特別支援学校・学級用）について（答申）」の 3 ページをご覧ください。これから、教科ごとに説明いたしますが、教科ごとに種目（教科名）、発行者番号・略称・書名等が記載されておりますが、私からは教科、発行者の番号・略称・書名の順で説明します。答申された教科用図書については、委員の皆様も事前に目を通されていらっしゃると思います「専門調査員研究報告書」に詳しく記載されておりますので、あわせてご覧いただきたいと思います。

まず、国語につきましては、2 東書「新しい国語」、15 三省堂「中学生の国語」、38 光村「国語」の 3 種が答申されました。22 ページ、東書は「話す・聞く」と「書く」の領域の学習では、はじめに学習の流れが例示され、次のページでポイントを押さえて練習ができるように構成されています。

24 ページ、15 三省堂は、「聞く・話す」と「書く」の学習は読解学習での作品の主題や、言語能力と関連させて取り上げられ、領域間に連続性があります。なお、「市内中学校からも言語活動の充実という面からよく考えられている」という意見がありました。

26 ページ、38 光村は、習得から活用へと学習が進むように、手引きが段階的に設定され、さらに学習の最後に学習内容を確認する問いを設けて、知識・技能が確実に習得されるよう工夫されています。以上が国語についてです。それでは、ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。この件につきまして、ご質問、ご意見がありましたら、お願いいたします。

○佐藤委員

やはり最近では、IT 技術の進歩などで活字離れが非常に進んでいるということで、そのあたりを中心に教科書を拝見していきますと、光村のものは、学習した言葉の力を確認するという、ここに問いかけが出ておまして、習得に技術も非常に感じられると思います。それと同時に、日本語という言葉の理解力をきちんとした形で話す・聞く、書くという 3 要素でもって、きちんとした形でスピーチ、あるいはバズセッション、それから 2 年ではプレゼンテーションということで、いわゆる最近言われている、子どもたちのコミュニケーション不足もこういうことで、補っていく必要がある。それには光村が最適だということ、私は考えます。

○委員長

ありがとうございました。

○沢野委員

私も、子どもたちには自ら考えて、学ぶ力、そして、伸びることを喜びを感じてほしいと思っています。そのほか、佐藤委員がおっしゃったように光村は、話す・聞く、書くのページ2段組で、上段で学習の進め方を詳しく解説されていて、下段ではポイントが示されていて見やすい工夫がされていると思います。これは、自分たちで学び、自ら考える学習方法だと思います。

○委員長

ありがとうございました。

○山田委員

別の視点からですが、多くの教材を見ているわけではないのですが、光村の1年生の最初の教材が杉みき子さんの郷土の童話作家、杉さんの物語が出ております。いろいろな場でお話しするときにもいつもお話ししているのですが、郷土の教材を取り上げるということは、新潟県、あるいは新潟市にとって、非常に大事なことだと思っています。光村は、真っ先に杉みきさんを取り上げて、学習はこのように展開するのですよと。あれは読解に入るのでしょうか。そのほか、書く、聞く、話すなどをセットにして、一つの区切りになっていますが、そのキーポイントは杉さんの物語だということで、私は大変うれしく思っています。以下の教材がどうなっているか見切れないうところもあったのですが。

今ひとつ、市内の中学校の先生方のアンケートを見ますと、光村は学習事項が大変整理されて提示されているというようなことを書いておられた人が、一番使いやすそうなのということを書いておられた人がいますが、私もそう思っていました。各分野の組み合わせを一つの単元の中でやっておりますので、いい方向ではないかと思えます。

○委員長

ありがとうございます。光村がというご意見が多かったように思いますけれども、国語につきましては、38の光村を選択するということがよろしいでしょうか。それでは、国語につきましては、38の光村を採択いたします。

では、続いて、書写をお願いいたします。

○学校支援課長

書写につきましては、11学図「中学校書写」、17教出「中学書写」、38光村「中学書写」の3種が答申されました。

30ページです。11学図は毛筆教材と技法に関連させて硬筆教材が配置されているとともに、教材の配列が学校行事との関連に配慮されています。

32ページです。17教出は、解説ページの縮小手本に中心線や筆順、注意点を附記し、技術のポイントを分かりやすくする工

夫がされています。

33 ページ、38 光村は、手紙、はがき、ノート、付箋、入学願書、送り状、のし紙など、作品例が豊富です。以上が書写についてです。ご審議をよろしくお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。書写について、ご質問、ご意見等はございますでしょうか。

○佐藤委員

教科書を拝見させていただいて、多分、中学校時代に大体の人が毛筆を習うだろうということで、その後、どのように展開するのかというのは、今後、それぞれの子どもたちのいわゆるスキル、あるいは興味に任せる必要があると思うのです。その中で、教材で、新潟市の関する資料を使われていると。やはりこれが重要なと思います。そういった流れの中で学図を推薦いたします。

○委員長

ありがとうございます。

○齋藤委員

今、佐藤委員からも話がありましたが、年々自分で字を書く、あるいは自分で字を読んでいくといえますか、はっきり言えばパソコン時代の中で、これを背景にすると、楷書の手本のすべてに学図は、筆順というものが示されています。筆順というものは、もう必要ないのではないかという意見も一般にはあるかもしれませんがけれども、やはり字を扱う子どもの気持ち、生徒の気持ち。こういう筆順というものを一回は体得するということが、非常にこの時期、大切なのではないかと思います。本当に楷書のすべてに筆順が示されていたので、これもなかなかいいです。

○委員長

ありがとうございます。

○沢野委員

私も齋藤委員と同じなのですが、なかなか筆順というのは、今の子どもたちはあまり重要視してないといえますか、書き方がむちゃくちゃということをよく拝見するのですが、やはり筆順と字の形の美しさというのは関連していると思うのです。私も小さいころから、書道はずっと習わされていたといえますか、でもやっていたよかったなという、字の美しさというのは習得できると思うので、私も筆順が重要視されている学図がいいと思います。

○委員長

ありがとうございます。ほかに。

○山田委員

原寸大の手本、これが学図は1年生で三つ、2年生で三つ、3年生で一つというようにありますが、この前、ちらっと話したのですが、骨書き、かご書きといったことは、原寸大の手本を写して、そしてそこに書くということが非常にしやすくなる

のです。そういう意味で、原寸大というのは、ある程度たくさんあったほうが良いなと思っております。筆の動きを見るのに骨書き、かご書きなどがあるけれども、光村でしたでしょうか。薄墨書きといった示し方ということも、非常に大事なのだらうと思っておりますが、こちらではあまりそういうものは少ないようですが、光村はそういうことを取り上げているということです。

文字そのものを見ると好みがありますので、この文字がいい、この文字が悪いというのがありますが、私は学図の楷書は非常に端正にできていると。いらない技術みたいなものを持ち込まないで、端正に書かれていると。これは大変数少ない学校教育の中の書道として大事なことだらうと思っております。

○委員長

皆さんから、多数の学図というご意見が出ておりますので、ではこれは11学図を採択でよろしいでしょうか。では、書写につきましては、11の学図を採択いたします。

では、続いて、社会をお願いします。

○学校支援課長

社会につきましては、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の3分野がありますので、それぞれの分野ごとに説明します。

まず、地理的分野では、2東書「新しい社会 地理」、17教出「中学社会 地理 地域にまなぶ」、46帝国「社会科 中学生の地理 世界のすがたと日本の国土」の3種が答申されました。

35ページ、2東書は、見開きごとに「確認」というコーナーを設け、説明したり、要約したりする言語活動を設定し、基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力等の育成を意識した構成になっています。

36ページ、17教出は見開きごとに右ページ欄外に「トライ」を設定し、その時間の学習内容を確認させ、基礎・基本の定着を図ることに重点を置いています。

37ページ、46帝国は、各章を通して、12か所の「スキルアップ」コーナーが設けられており、地図や統計資料の見取りや活用など、地理的技能が系統的・段階的に身に付けられるよう配慮されています。以上が、社会の地理的分野についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。地理的分野につきまして、ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

○山田委員

先ほどの国語のところでお話いたしました、書き方でしょうか、書写のところにも安吾のことなどが取り上げられており、郷土の教材がきちんと育っているなという思いで見えておりました。



たが、社会科、特に地理はそういう意味では教材が非常に細かくなっておりますので、郷土の教材を出していく、取り上げてもらうということは非常に大事だと思います。

東書と教出、それに帝国を比べますと、東書と教出はほぼ同じくらいの割合で取り上げていて、帝国が少し少ないかなと。もう少し新潟県、新潟市を取り上げていただいても結構だったのではないかと考えていますが、特に東書の「政令指定都市新潟市」、これは多分初めて教材に載ってきたのではないかと考えています。私たちが政令市になってから、政令市のあり方について論議をし、その方向で教育も進めていこうということをしているわけですが、そういう点でうれしい教材だなと考えております。

○委員長

ありがとうございます。ほかにありますか。

○佐藤委員

私も山田委員の意見と似ているのですけれども、ただ、日本海側、あるいは北陸地方で最初の政令市ということ。教育の中にきちんとはめ込んでいます。これは当然ながら教育ビジョンの中にあります。新潟市は教育ビジョンに即応した、基本的には世界に通用する人材を育てていこうということでもありますので、やはりそういったところに意識づけとして、こういった記述というものは重要なポイントだろうと思います。

それから、A B版が非常に広く使われていますので、最近、テレビもかなり大きくなっておりまして、そういうビジュアルに関しましては、ある程度見やすいといったところがトレンドだと思いますので、私も山田委員と同様のものを推薦したいと思います。

○委員長

ありがとうございます。ほかにありますか。

○齋藤委員

山田委員もおっしゃっていましたが、地理の場合、いろいろな事例の中で新潟県、新潟市、自分たちの近いところの事例というものは非常に身近に感じて、生徒によく入ってくる材料だと思うのです。そういった意味では、答申された出版社はほとんど同じくらいの数を入れてきています。

もう一つ、地理の場合は、今、佐藤委員からもありましたが、やはり目に訴えるといいますか、見た目でものすごく入ってくる。視覚でちゃんと感じる要素というのは非常に強いと思うのです。ですから、東書のワイド版というのは、非常に資料の数も多いですし、見たときのインパクトがある。そういうものが非常に鮮明に残ってくる。教材として入ってきやすいのではないかと印象を持ちました。

○委員長

ありがとうございます。そのほかにありますか。

○山田委員

今、委員の皆さんからお話があったのですが、A B版、私も東書の使い方は大変賛成なのです。非常に目で分らせるという。特に社会科は事象がいっぱいありますので、それを整理して目で分らせるという意味で非常にいいのですが、反面、中学生だけどもなという思いもあります。これは別に社会科だけではなくて、どんどん教科書が大きくなっていきます。大変重くもなるし、机の上にどのように広げるという問題でも出てきますので、これは今後、各社が出してきた場合に、今回ということではなくて、各社がそれぞれそういう方向でいった場合には、教科書サイズというものはどういうものかいいのだということ、考えてみる必要があると思います。またぐっと進んでいくと、大きな教科書サイズを生かした教科書が出てくるはずですが、それぞれどのように考えればいいのかなということを感じております。

○委員長

ありがとうございます。さまざまなご意見をいただきながらなのですけれども、これからの世界に羽ばたく新潟の子どもたちが、郷土を誇れる新潟っ子ということから見ますと、郷土を教材にした東書というものが、皆さんの中でよい本ではないかと思われているみたいなのですが、それでよろしいでしょうか。それでは、地理的分野は2の東書を採択いたします。

続きまして、歴史的分野をお願いいたします。

○学校支援課長

歴史的分野につきましては、2東書「新しい社会 歴史」、17教出「中学社会 歴史 未来をひらく」、35清水「新中学校歴史 日本の歴史と世界」の3種が答申されました。

40ページ、2東書は、章末に「この時代の特色をとらえよう」を設け、学習の振り返りにより基礎・基本を定着させていることと、多様な言語活動を通して、思考力・判断力・表現力等を育成する構成になっています。

41ページ、17教出は、章末に「学習のまとめと表現」を設け、日本と世界の動きについて、年表の穴埋め形式で振り返り、主に基礎・基本の定着に重点を置いています。

42ページ、35清水は、章末に各時代を「まとめてみよう」を設け、時代の流れや文化の特色、世界との関連などの視点から、まとめる活動を組織しています。以上が歴史的分野についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。これにつきまして、ご質問、ご意見等ありましたら、よろしくお願いいたします。

○山田委員

どちらもあるのですが、どちらかというと、東書のほうがウェイトをかけて表しているかな、取り上げているかなということは、言語活動の充実です。東書のほうは見開きごとに確認を配置し、そして学習内容をまとめたり、説明したりする課題を節の各章末に配置しています。また、歴史スキルアップの中でまとめたり、発表したりする技能を身につけるための説明などがあり、言語活動に結びついていく構成が取られている。そういう点では、東書のほうが一歩進んでいるのではないかと思います。

○委員長

ありがとうございます。そのほかにありますか。

○佐藤委員

やはり歴史というのは非常に難しい観点でありまして、どれを取るか、どれを評価するか、どれを突っ込むかによって全然違うと思うのですが、やはりまず最初に学ばなければならないのは、歴史の事実というものをどのようにとらえるかということです。

それと同時に、これはどんどん歴史が進むたびに、歴史の教科書でやることがいっぱい出てくるわけです。我々は少なくとも40年前の40年分は実際に体験していますからいいわけけれども、未体験の部分子どもたちは学んでいかなければならないので、非常にスパンの広いものを学ばなければなりません。そういうことだと、大きな歴史がどのように流れてきたのかということをもととらえることが、歴史を学ぶために重要なポイントだと思います。そうなりますと、その辺で、非常に東書はとらえやすいという気がしますので、私も東書がよろしいのではないかと思います。

○委員長

ありがとうございます。

○山田委員

今、佐藤委員さんのお話で、私もそう思うのですが、東書の各章の最初を見ると、時代の流れを示して、今、ここにいるのですよと。これからここを調べていくのですよということが見える構成になっていたはずでございますが、そういうことは歴史を学ぶ、それこそ通史を学んでいくわけですが、非常に大事なことかと思っています。

○委員長

ありがとうございます。そのほかに。それでは、今ほどお二人の方から東書がよいのではないかとのご意見をいただきました。採択してよろしいでしょうか。それでは、歴史的分野は2の東書を採択いたします。

続いて、公民的分野をお願いします。

○学校支援課長

公民的分野につきましては、2東書「新しい社会 公民」、17

教出「中学社会 公民 ともに生きる」、116 日文「中学社会 公民的分野」の3種が答申されました。

48 ページ、2 東書は、授業1時間の学習のねらいと学習を振り返る課題が欄外の確認で示されるとともに、章末の発展的な学習では、言語活動により思考力・判断力・表現力等の育成を図るとしています。

49 ページ、17 教出は、章末に学習のまとめと表現を設け、主に構造図による穴埋め問題で、基礎・基本の定着に重点を置き、「発展」、「トライ」、「読んで深く考えよう」などで、発展的な学習を扱い、言語活動を通して思考力・判断力・表現力等の育成を図ろうとしています。

52 ページ、116 日文は、各編冒頭に写真やイラスト、マンガにより、その編の学習の流れをナビゲートし、生徒が興味・関心を持てるように工夫しています。以上が公民的分野についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。これにつきまして、ご質問、ご意見がございましたら、お願いいたします。

○山田委員

また地域教材についてくどく話をしておりますが、十日町の大地の芸術祭でしょうか。これは教出で取り上げていましたよね。文化という面で公民の内容を取り上げている、その一例だと思っておりますが、それ以上に十日町の山の中でああいうことが行われているということ全国に知らしめるという意味でも、私は大変いいなと思って見ております。

巻原発、あるいは村上の地域通貨でしょうか。それから、新潟水俣病なども事例として取り上げておりますし、それから模擬裁判は新潟だからということではないのですが、模擬裁判について新潟地方裁判所を例にして2ページにわたって、内容的には1ページにわたって書いてあるということになりますが、そういう面では、教出は非常に地域の教材を大事にしている教科書だろうと思っております。

それから、今ひとつ、これは課長からも説明があったのですが、ページの最後に「トライ」のコーナーを設けて、学習したことをまとめたり、表現活動を取り入れたりすると。これは思考力、判断力、表現力等を育成するという意味でも、非常に大事であるし、また言語活動の充実ということを目指しているのではないかと考えております。

○委員長

ありがとうございました。そのほかに何かございますか。

郷土の学習から始まり、郷土の授業ということで、総合的に

見ても教出がよいのではないかという意見が出されておりますけれども、皆様、いかがでしょうか。それでは、社会公民的分野は17の教出を採択いたします。

では、続きまして、地図についてお願いします。

○学校支援課長

地図につきましては、2東書「新しい社会科地図」、46帝国「中学校社会科地図」の2種が答申されました。

56ページ、2東書は、一般図や主題図に「注目したい記号」、「チャレンジ」、「読図の一步」などがあり、学習課題や注目すべき点を明確にし、地域的特色をとらえさせようとしています。

57ページ、46帝国は、ワイド版、AB版を効果的に活用し、幅広い範囲の地図を掲載するとともに、イラストをあしらった鳥瞰図を多用し、地域全体の特色を立体的、視覚的にとらえられるよう工夫しています。以上が地図についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。地図につきまして、ご質問をお願いします。

○佐藤委員

先ほど申し上げましたように、地図とか、そういったものはビジュアルで訴えるということは必要でありますので、当然ながら帝国のAB版というのは非常に効果的ですし、それから新潟県全県が一つのところに表記されている。ほかは分断されているものですから、当然ながら帝国が一番よろしいと、私は思いました。

○委員長

ほかにご意見はありますでしょうか。やはり地図というのは、視角的に訴えるものがないのではないかということで、46の帝国がいいのではないかという意見が出ておりますが、それによろしいでしょうか。それでは、地図は46の帝国を採択いたします。

続きまして、数学をお願いします。

○学校支援課長

数学につきましては、11学図「中学校数学」、61啓林館「未来へひろがる数学」、104数研「中学校数学」の3種が答申されました。

61ページ、11学図は、すべての章に数学的活動を一題材用意しています。また、章の扉に観察・操作・実験などの操作活動を多く取り入れています。

63ページ、61啓林館は、主体的に学習できるように、多種多様な教材や練習問題を豊富に配置しています。特に発展的な問題は、思考力・判断力・表現力等の育成に配慮しています。市内中学校から寄せられた意見の中にも、「興味を引きつけるよう

な話題が多く、問題数も豊富である」という指摘がありました。

64 ページ、104 数研は、巻末の「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」の中に、「深めよう」のコーナーを設け、より発展的な問題を配置しています。以上が数学についてです。ご審議をお願いします。

○委員長

ありがとうございました。では、数学について、ご質問、ご意見をお願いいたします。

○山田委員

私は数学に詳しくはないのですが、中を見ますと、啓林館が主張しているスパイラル式の教育ですが、らせん系で簡単などころから難しいところに繰り返し指導していくと。これは文部科学省もそういう指導をしております。そういう意味で、私は啓林館に賛成です。

それから、今回の端的に理数の力をつけていかないとだめだというときに、量が少ないではないかという指摘。要するに学習内容が少ないではないかという指摘があって、今回の改訂になったわけです。時間的には 10%増えているのでしょうか。しかし、この啓林館の教科書を見ると、非常にいろいろなところで問題数がたくさんあります。聞いたところによると、50%くらい多いのではないかと。ただ、それを全部やるということではなくて、発展を含めて考えておりますので、そういった意味では活用しやすい出版社ではないかと思います。ということが中学校のアンケート、教科研究についても掲げておりましたし、そういう意味で、やはり活用できるのではないかと考えています。

○委員長

ありがとうございます。なかなか我々が分からない部分までご説明いただいて、ありがとうございました。

○沢野委員

それこそ数学は詳しくないので、新潟市の後期教育ビジョンの基礎的、基本的な知識と学問の確実な定着というものが大きく取り上げられていると思うのですがけれども、課長の説明にもありましたけれども、挙げられた 3 社にはその力をつけるための工夫がなされているのではないかと思います。

○委員長

ありがとうございます。そのほかにありますか。

○齋藤委員

ほかの教科もすべてそうだと思いますが、特に数学というのは、一番簡単な部分を踏み外すと、次になかなか進めないのです。やはり私の経験からいくと、どこかぶち切れてしまうのです。もう分からないと。一度踏み外したら、なかなか上に進んでいけないという専門性のある、ある意味では特性のある科目だと思うのです。そういった意味では、山田委員の言われるこ

とは、私は非常によく理解できます。

○委員長

ありがとうございます。数学の基礎的、基本的な知識を繰り返しやるという技法と、生徒の学習力を高めるということで、61の啓林館がいいのではないかというご意見が出ているのですが、いかがでしょうか。それでは、数学につきましては、61の啓林館を採択いたします。

続いて、理科をお願いします。

○学校支援課長

理科につきましては、2東書「新しい科学」、4大日本「理科の世界」、11学図「中学校科学」の3種が答申されました。

67ページ、2東書は、観察・実験の手順が明確であり、操作方法や注意点が分かりやすく明示されています。

68ページ、4大日本は、観察・実験の後により深く追求できるよう、「やってみよう」で学習内容を深めさせる配慮がされています。

69ページ、11学図は、観察・実験のまとめのページには、結果と考察を分けて記述しており、生徒に分かりやすくまとめやすい構成であります。教科書センターにも同様の意見が寄せられていました。以上が、理科についての説明です。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。では、理科につきまして、ご質問、ご意見をお願いいたします。今、理科離れといえますか、その点につきまして、何かご意見等ありますか。

○山田委員

新潟市の教育ビジョンでは最初に、キャリア教育について訴えているのです。キャリア教育というのは、子どもたちが目的を持って勉強する、何とか子どもが目的を持つ。要するに学習の目当てみたいなものを自分でつかんでいくような子どもたちになってほしいという願いがあったかと思います。第一の分野として、教育ビジョンに載っているのです。この教科書で見ますと、それがきちんと位置づいているのです。私もびっくりして見ていたのですが、今、習っていることと、仕事というのはどのように結びついているのか。あるいは生活がどう結びついているのか。そういうことが欠けていたのではないかということ、学図が正面から取り上げています。そういう意味で、私は、非常にいいなと思っております。

併せて、章末に仕事内容が出ているのですが、章の始めには、当然学習の見通しを持たせることが、子どもたちが魅力を高める基になっているということで、見開き2ページで、全部でいうと4ページで目当てをとらえさせる学習の見通しをとらえさ

せる内容が載っていると。これもまた、学習過程としてはいい組立だなと思っています。

○委員長

ありがとうございました。ほかにありますか。

○佐藤委員

理科離れというのは、最近よく言われておまして、それはなぜかという、学校の先生と生徒たちが、どうしても実験をやったりすると、まず結果を出さなければいけないということがあるのです。それについていけない子どもがこんないやだという話になってくるわけです。そういうところと同時に、新しい学習指導要領で言語活動の充実が重要ですよというところ。この辺を理科のところでもやっていかなければいけないわけで、そうなりますと学図には説明してみようというコーナーがありまして、それは復習事項を使って、生徒の言葉で表現をさせています。そういうことによって、理科というものの興味を自分の言葉で話すことによって、自分のものにしていくという。これは何とか理科離れというものを止められるのではなからうかという気がいたしますので、私はそういう観点から、学図の説明してみようというコーナーというのは非常に有効かと思ひ、学図を推薦いたします。

○委員長

ありがとうございました。ほかにありますか。

○山田委員

学図の教科書は1年生で小学校とのつながりが非常に丁寧に書いてあると思ひました。小学校ではこういったことを学んだねと。そして、これからこういうことをやるのだよという形です。やはり何でもいいから勉強するというのではなくて、先ほどのスパイラルではないですが、積み上げの中で学習というのは成り立つのだと。そういうことを大事にしているのは中1では大切なところだろうと思ひます。

○委員長

山田委員から、学習する目的ということが明確になっている学図がいいのではないかというご意見や、佐藤委員からは理科ということを実験だけではなくて説明してみようということで、自分の言葉で、言語能力で確かめていくということで、非常にいいのではないかということなのですけれども、11の学図で、皆さんよろしいでしょうか。それでは、理科につきましては、11の学図を採択いたします。

続きまして、音楽をお願いします。

○学校支援課長

音楽につきましては、音楽（一般）と音楽（器楽合奏）があります。まず、音楽（一般）について説明します。

音楽（一般）は、17教出「中学音楽 音楽のおくりもの」、27教芸「中学生の音楽」の2種が答申されました。



73 ページ、17 教出は、表現と鑑賞の関連が適切に図られ、特に日本の音楽とアジア諸国の民俗音楽がはぐくんだ多様な文化や歴史等の特徴を扱っています。

74 ページ、27 教芸は、歌唱教材では、発達段階に応じた曲を掲載するなど、生徒の実態及び授業の進め方に応じて、学習しやすいよう工夫されています。以上が、音楽（一般）についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。音楽（一般）についてのご質問、ご意見をお願いいたします。

○山田委員

教出の教科書は少し大きいのでしょうか。折りたたみ式で、歌唱教材のところと写真が非常にマッチした、情緒に訴える場面だったなと思っておりますし、取り上げている歌は大変いい歌ばかりで、また新しい歌も卒業式のときに歌う歌は何という歌だったのでしょうか。「旅立ちの日に」という歌。そういったものも取り上げており、バランスが取れているなど。

それから、音楽ですので、そういう気持ち、情緒に訴えるような教科書になっているという気がしているように思いました。

○委員長

ありがとうございます。ほかに、佐藤委員いかがでしょうか。

○佐藤委員

今ほど山田委員がおっしゃったように、昔はどちらかというところ、音楽というと西洋音楽が中心でした。あまり民俗音楽だとか、そういったものがあまりフォーカスされていなかったのですけれども、かと言ってそればかりやっても、世界にはいろいろな音楽がありますから、そういうことから考えていくと、すべての面でバランスが取れているほうがいいだろうと思います。それを見極めますと、教出のほうがいいのかと思いました。

○委員長

ありがとうございました。

○沢野委員

私も皆さんと同じで、「赤とんぼ」とか、ずっと歌い続けてほしいなという曲もあり、先ほどの「旅立ちの日に」ではないですけれども、新しいもの、話題性のある曲も取り入れている教出はバランスがいいと思います。

○委員長

よろしいでしょうか。

○山田委員

別の視点から、ちょうどそこに書いてありますので、全体的な特徴で、グリーン電力及び大豆油インキによる印刷で、白色の再生紙を使用していると、選定委員会では話題になったということなのだと思いますが、今回、そう思っていると、教科書のほとんどがカラーユニバーサル印刷というのでしょうか。そういう、色弱の人たちが見ても問題が起こらない、読み取れる

ような色合いを使っているということ。これは小学校もそうでしたが。ただし、それがそうならない教科書はだめだとは、今回は言っていないですが、特別支援教育重視は国の一つの命題ですので、それにかかわってきますので、そういうことを考えると、今後、こういったカラーユニバーサルデザインのようなものは、きちんと取り上げていない教科書は使ってはいけないということになるかもしれません。そういうところは注意してもらわなければだめだろうと思っています。

○委員長

ほかにありませんか。皆様の声をまとめまして、音楽は17の教出でいかがでしょうか。それでは、音楽（一般）につきましては、17の教出を採択いたします。

次に、音楽（器楽合奏）をお願いいたします。

○学校支援課長

音楽（器楽合奏）は、17教出「中学器楽音楽のおくりもの」、27教芸「中学生の器楽」の2種が答申されました。

75ページ、17教出は、リコーダーと和楽器の編成による合奏曲を掲載するなど、生徒の興味関心を高める工夫をしています。

76ページ、27教芸は、和楽器について楽器の歴史や地域性、文化について分かりやすく説明しています。以上が、音楽（器楽合奏）についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

器楽合奏についてのご質問、ご意見をお願いいたします。

○佐藤委員

先ほど申し上げましたとおり、いろいろな音楽がバランスよく載っている。こういった関連からいきますと、教出のほうがアニメの映画音楽とか、ラテン音楽とか、いろいろな幅広い楽曲が掲載されておりますので、関連からいけば、当然ながら教出のほうよろしいのではないかと思います。

○委員長

ありがとうございます。沢野委員、いかがでしょうか。

○沢野委員

佐藤委員と同意見です。本当にラテン曲からアニメまでバランスよくいろいろなジャンルが掲載されていていいと思います。

○委員長

齋藤委員いかがでしょうか。

○齋藤委員

同じ意見です。

○委員長

では、音楽（器楽合奏）は、17の教出がよいのではないかとこの意見で、採択してよろしいでしょうか。では、器楽合奏につきましては、17の教出を採択いたします。

続いて、美術をお願いします。

○学校支援課長

美術につきましては、38光村「美術」、116日文「美術」の2種が答申されました。

79ページ、38光村は、見開き4ページの特別展示室を各冊子

に設けるなど、大きな図版を用い、詩や言葉を添えることで、言葉と美術作品の双方から生徒の学習意欲を高めるように工夫しています。

80 ページ、116 日文は、これまでの絵画、彫刻などのいわゆる「領域」別の編集ではなく、それぞれがバランスよく配置された「テーマ」別の編集となっています。以上が、美術についてです。ご審議をお願いします。

○委員長

ありがとうございます。美術について、ご質問、ご意見を願いたいします。

○佐藤委員

あまり美術には詳しくないのですが、歴史的な絵画とか、そういったものは分割されて載っていることが多いのですが、光村の特別展示室は見開きになっていて、作者の意図がよく分かると思います。そういう観点からいきますと、美術品の全体像を把握できるということで、特別展示室というものがなかなかよくできあがっているなと思いますので、光村がよろしいのかと思います。

○沢野委員

私も同じように、見開きですてきな屏風が出ていた記憶があるので、あれは国宝だということで、国宝であるという印に二重丸がついていたので、なかなか細かな配慮がされているなということと、日本の文化、芸術を子どもたちに伝えていこうというのは、理にかなっていると思いますので、光村がいいと思います。

○委員長

ありがとうございます。山田委員、何かございますか。

○山田委員

全く同じですが、見開きのほうが迫力があります。あれを見ると価値があるなと思います。

○委員長

では、38 の光村を採択してもよろしいでしょうか。それでは、美術は 38 の光村を採択します。

続きまして、保健体育をお願いします。

○学校支援課長

保健体育につきましては、4 大日本「中学校保健体育」、224 学研「中学保健体育」の 2 種が答申されました。

83 ページ、4 大日本は、身近な疑問から学習できるように、資料や発問が工夫されています。また、資料が豊富であるとともに、図表やグラフのデータが新しくなっています。

85 ページ、224 学研は、小单元ごとの発問から始まり「課題をつかむ」工夫がされています。また、資料、イラスト、写真の配置バランスが大変よくとれています。以上が、保健体育についての説明です。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございます。保健体育について、ご質問、ご意見

をお願いします。

○山田委員

保健体育の教科書がこんなにたくさんの内容を含むようになってきたのかと、正直びっくりして見ていたところでした。それは、大日本も学研も同じです。大変詳しいし、そしてたくさんの内容が書かれています。そういう意味では、子どもたちは大変だなと。どこでどのように習うのかなというような気持ちもありますが、内容的に見ますと、大日本では各項ごとに学習を進めていくときに、学習のまとめといったものがきちんとあって、子どもたちがそこへ振り返っていくということにもなるのではないかと思います。また、発問が具体的に示されたりしているという点で、大日本がいいのかと思います。

○委員長

ありがとうございます。そのほかにありますか。

○齋藤委員

山田委員も今、言われました。課長のお話にもあったのですが、大日本のほうが身近な疑問といえますか、そういうものから実践にどうつなげていくかというような、今、話していた、考えようというのでしょうか。そういう自分の中で一回飲み込みながら、体験を含めて、日常生活の実践につながっていきけるような要素というものが非常に多く含まれているので、その辺は非常に評価できると思います。

○委員長

ありがとうございます。大日本のほうが保健体育では、日常生活の実践につなげる資料が含まれていて、非常によいのではないかと思います。いかがでしょうか。それでは、保健体育は、4大日本を採択してよろしいですか。採択いたします。続きまして、技術・家庭をお願いします。

○学校支援課長

技術・家庭につきましては、技術分野と家庭分野がありますので、分野ごとに説明します。

まず、技術分野は、2東書「新しい技術・家庭 技術分野」、9開隆堂「技術・家庭（技術分野）」の2種が答申されました。

87 ページ、2東書は、「生活に役立つもの」、「環境に配慮した材料で」、「家族で使えるもの」の視点から、段階ごとに基礎的・基本的な知識及び技術が身につくようになっていきます。

89 ページ、9開隆堂は、多くの題材を扱い、段階ごとに基礎的・基本的な知識及び技術が身につくような配列になっています。以上が、技術分野についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございます。技術分野についてのご質問、ご意見をお願いいたします。

○佐藤委員

当然ながら、東書は身近な生活に用いる新しい技術の工夫が

なされているのです。やはりそのベースになっているものは何かというと、日本の伝統文化。これは世界に誇るべき技術が非常に高いものを日本の歴史の中で構築してきたという背景があります。だから、それをちゃんとした形で勉強しているということは、日本の古来からやってきた、いろいろな極めて高い技術レベルといったものを背景に、新しいものをやっていくということは、技術・家庭といいますか、工業高校がなくなっている最近の実態を見ますと、どうしても技術というものをもう少しきちんとした形で、子どもたちに理解をさせ、評価をする必要がある。そういうことから考えますと、東書がよろしいのではないかと思います。

○委員長

ありがとうございます。そのほかにいかがでしょうか。では、技術分野につきましては、佐藤委員からご提案がありました、2の東書でいかがでしょうか。では、技術分野につきましては、2の東書を採択いたします。

続きまして、家庭分野をお願いします。

○学校支援課長

次に家庭分野は、2東書「新しい技術・家庭 家庭分野」、9開隆堂「技術・家庭（家庭分野）」の2種が答申されました。

90 ページ、2東書は、基礎的な技能を写真やイラストを用い、「基礎技能」でまとめて掲載するとともに、実習ごとに、実習の安全を掲載しています。

C「衣生活・住生活と自立」では、防災安全教育の視点から、「防災リュック」を取り上げています。

92 ページ、9開隆堂は、構成と配列が「家族」から入って、「食」から「衣」、「住」から「環境」と自然な流れになっており、学習課題を用いながら学習できるようになっています。また、インタビュー活動や「話し合ってみよう」などで、考えをまとめて交流する活動場面を設定しています。以上が家庭分野についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ここにつきまして、ご質問、ご意見はございますか。

○山田委員

東書と開隆堂で、大きく違うのは入り方です。どこから入っていくかということが大きく違っていると思いますが、東書の場合、食から入っていると。食生活のほう子どもたちの興味を呼ぶのだろうという気がいたしますし、大きな流れとして、東書のほうがいいのではないかと思います。また、巻頭で小学校の学習を振り返って、そして中学校の見通しを持つということをやっている。こういうことをきちんとやっていただくことは、落ちる子どもをなくしていくことになると思いますので、

東書がいいかと思えます。

○委員長

ありがとうございます。そのほかにありますか。では、家庭分野につきましては、2の東書でいかがでしょうか。それでは、家庭分野につきましては、2の東書を採択いたします。

続きまして、英語をお願いします。

○学校支援課長

英語につきましては、2東書「NEW HORIZON English Course」、11学図「TOTAL ENGLISH New Edition」、15三省堂「NEW CLOWN ENGLISH SERIES」の3種が答申されました。

94ページ、2東書は、新設された「学び方コーナー」で、QAなどで文法の定着などを図るための工夫がなされています。

96ページ、11学図は、1年生では一般動詞から導入されており、小学校外国語活動からの円滑な接続が図られています。

97ページ、15三省堂は、見開き2ページで、左側に基本本文と文法のまとめ、右側に Listen、Speak、Write の活動があり、4技能を統合的に扱うレイアウトとなっています。以上が英語についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。

○沢野委員

小学校で外国語活動が導入されたのですがけれども、それと中学校の英語との連続性とか、かかわりなどはどういったものでしょうか。

○学校支援課長

小学校では、聞くことや話すことなどの実践的なコミュニケーションの能力の基礎を養うということが重視されています。しかし、今回の改訂により、小学校外国語活動が導入され、特に音声面を中心とした外国語を用いたコミュニケーション能力の素地が小学校で育成されるというようになりました。このため、中学校段階では、聞くこと、話すことということに加えて、読むこと、書くことを明示することで、小学校における外国語活動にはぐくまれた、その素地の上に、これらの四つの技能をバランスよく育成していくということが重要になってくるということでもあります。

○委員長

よろしいでしょうか。

○沢野委員

ありがとうございます。

○委員長

そのほかにありますか。

○山田委員

学校の研究を見ますと、三省堂が使いやすいというようなことが書いてあります。それは、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことがバランスよく配置されていると。そして、四つの技能を統合的にレイアウトしているということが出ておりました。

ので、現場が使ってみたい、使いやすいという教科書がいいのではないかと思います。

○委員長

ありがとうございます。そのほかに。山田委員から、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことということで、四つの技能をバランスよく行っている三省堂がいいのではないかというご意見をいただきましたけれども、いかがでしょうか。では、英語につきましては、三省堂を採択いたします。

続きまして、特別支援についてお願いいたします。

○学校支援課長

続きまして、特別支援学校中学部用教科用図書並びに一般図書（特別支援学校・学級用）についてであります。これにつきましては、答申に記載されているものと同じものが、専門調査員研究報告書の101から106ページに記載してございますので、そちらをご覧ください。特別支援学校中学部用教科用図書については、文部科学省が作成し、著作権を有する平成24年度使用「特別支援学校中学部用の教科書目録」に記載された教科書のうちから採択することになっているため、102ページにお示しましたように、特別支援学校中学部知的障がい者用、国語・数学・音楽の教科用図書、通称四つ星を教科用図書として推薦することを確認いたしました。

次に、一般図書推薦の観点でございますが、「専門調査員研究報告書」100ページ中段をご覧ください。2の①でございますが、A、B、Cの三段階の難易度が児童生徒の実態に適合していることで、Aとして「話し言葉をもたないが、物事への興味や関心がみられ、簡単な弁別が可能な段階」、Bは「話し言葉を持ち、文字の読み書きに興味をもちはじめ、物事の因果関係がある程度分かる段階」、Cにつきましては、「簡単な読み書きは可能であるが、文部科学省検定教科書及び文部科学省著作教科書で学習が困難な段階」というA・B・Cの三つの段階で子どもたちの実態に適合しているということから推薦しております。

また、前年度まで使用されていたものの中で、適切と思われるもの、内容が具体的で、児童生徒にとって身近なものであり、興味・関心を示すと思われるもの。一つの教科で使用されるだけでなく、学習活動全般に活用できるとと思われるもの、装丁がしっかりしており、文字や絵・写真・図等が鮮明であるものということで、103ページから106ページまでが推薦図書でございます。

なお、一般図書の調査研究にあたっては、本年度も小・中学校特別支援学級保護者、特別支援学校小・中学部の保護者から

専門調査員を引き受けていただきました。保護者としての考えや要望を検討や協議の場を出していただき、調査研究が大変深まったことを報告いたします。以上でございます。ご審議、よろしく願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。特別支援につきましては、私から一言申し上げたいと思います。特別支援学校中学部用教科用図書並びに一般図書、それぞれ選考された図書が提示されております。一般図書では、A・B・Cの3段階、障がいの程度に応じられるようにということで、このようになっているということです。前年度まで使用されたものも中に含まれております。よろしいでしょうか。

児童や生徒に接している現場の先生方や保護者の代表の方々からもご意見をお聞きし、きちんと反映されているということです。ですので、推薦のとおり、これで皆さんいかがでしょうか。異議ないでしょうか。それでは、ここに記載されているとおり、採択いたします。

では、議案第12号は、すべてご承認いただいて、よろしいでしょうか。ありがとうございました。

続きまして、議案第13号、学校支援課、お願いいたします。

○学校支援課長

それでは、平成24年度使用新潟市立高志中等教育学校前期課程用教科用図書につきまして、5月の教育委員会の諮問を受け、教科用図書選定委員会調査部会での調査研究を基にした検討部会での審議を経て、ここに答申いたします。お手元の資料107ページ、平成24年度使用新潟市立高志中等教育学校前期課程用教科用図書について（答申）をご覧ください。「記」以下に示されている1から3の基準により、調査研究結果に基づき、慎重に審議した結果、次の108ページから116ページまでに記載してある教科用図書が適当であると答申されました。

次に、今回の教科用図書採択にかかる選定委員会の答申に至までの選定作業について、簡単にご説明いたします。平成23年5月25日に第1回選定委員会検討部会において、教科用図書採択の基本方針、諮問内容、選定手順等を決定しました。その後、調査部会において、各教科の教科用図書の調査研究を行い、選定資料を作成しました。そして、7月12日に第2回選定委員会検討部会において、その選定資料を基に審議し、答申内容が決定しました。

次に、調査研究の方法について、簡単にご説明いたします。教科用図書の調査研究については、新潟市立高志中等教育学校



の教育目標及び教育内容を踏まえ、各教科の教科用図書の調査研究の観点を設定して行われました。

お手元の資料 117 ページ、平成 24 年度使用新潟市立高志中等教育学校前期課程用教科用図書選定資料をご覧ください。具体的には、高志中等教育学校では、知性と人間性にあふれ、高い志を持つ次代のリーダーとなる生徒を育成することを教育目標とし、その達成のための具体的な方策を四つ示しています。一つ目は、学習内容を効果的に組み合わせるなど、6 年間の連続性を生かしたカリキュラムを編成するという「連続性」。二つ目は、前期課程では、年間 1, 085 時間の授業時数を確保し、個に応じた丁寧な学習指導を行うという「発展性、多様性」。三つは、自ら課題を解決していく中で、知識、技能を活用する力や考える力を身につける追究型の学習を重視するという「課題性」。四つ目は、仲間とともに学ぶ協同的な学習を計画的に実施するという「協同性」であります。

また、各教科の教科用図書の調査研究の観点については、各教科の特性に応じて設定されています。例えば、国語では、119 ページにあるように、単元構成と配列、教材内容と構成、学習過程への配慮、高志中等教育学校の教材としてなどの観点が設定され、調査研究が行われました。

また、今回、採択される高志中等教育学校前期課程用教科用図書につきましても、先ほどの中学校用教科用図書と同様、平成 24 年度から 4 年間使用することとなります。各教科の調査結果の報告に入る前に、一旦、ここまでについて、ご審議をよろしくお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。今ほどは答申に至るまでの選定作業、調査研究の方法についての説明がありました。今回の高志中等教育学校前期課程用教科用図書の採択にあたっては、次の点に留意しながら慎重に審議をよろしくお願いいたします。

1 点目は、先ほどの説明のとおり、高志中等教育学校の教育目標及び教育内容を踏まえること。2 点目は、中学校と同様、平成 24 年度から 4 年間の使用をすることです。さらに選定委員からの答申を基に、高志中等教育学校の子どもたちに最も適した教育用図書を採択できるよう、広い視野からご審議をよろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、これから教科ごとに答申された内容を基に、高志中等教育学校前期課程用教科用図書を採択していきます。教科ごとに答申された内容の説明をお願いいたします。

○学校支援課長

それでは、お手元の資料 108 ページ、平成 24 年度使用新潟市立高志中等教育学校前期課程用教科用図書について（答申）をご覧ください。これから、教科ごとに、発行者の番号順にご説明いたします。答申された教科用図書の特徴については、委員の皆様にも事前に目を通していただいた、117 ページの平成 24 年度使用新潟市立高志中等教育学校前期課程用教科用図書選定資料に詳しく記載されておりますので、あわせてご覧ください。

まず、国語です。資料 119 ページの選定資料をご覧ください。ここで、「1 この選定資料は、教科用図書採択関係者以外には部外秘とする」と記載されていますが、これは本定例会以前の段階での申し合わせ事項です。各教科等の最初のページに同様の記載がありますが、すべてそのようにお考えいただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

それでは、国語につきましては、15 三省堂「中学生の国語」、17 教出「伝え合う言葉中学国語」、38 光村「国語」の 3 種が答申されました。

15 三省堂は、「言語文化編」、「辞典編」、「情報活用編」からなる資料編を別冊とし、発展的内容を盛り込むなど、内容が豊富であり、追究型の学習を展開しやすくなっている点が特徴です。

17 教出は、話す・聞く、書く、読むの領域ごとに単元を配列したことにより、学習の系統性が明らかになっている点が特徴です。

38 光村は、話す・聞く、書く、読むの領域を組み合わせた単元を設定し、書くために読んだり、話すために書いたりするなど、生徒が課題意識を持って追究していく学習が展開できる点が特徴です。以上が国語についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。国語について、ご質問、ご意見をお願いいたします。

○佐藤委員

高志中等教育学校はほかの学校とは少し違うところが、当然ながらあってしかるべきでありまして、特に目指すものは、新潟市のリーダーを育てる。育てるためには、高い志というものが重要なポイントなのです。では、高い志をどうやって養成していくか。それは総合的なそれぞれの分野でもってやっていかなくてはならないし、基本にあるのは読むということなのです。そういった中で、子どもたちに読ませるといふ。読んで自分で読解をして、自分で課題意識を持って追究していくという学習

は、非常に重要なポイントだと思うのです。そうなりますと、この中でじっくりと読み上げる作品、特に物語文が教材として必要になってきます。そういう観点からいきますと、光村が非常にそういったところをついていると思いますので、光村を推薦したいと思います。

○委員長

ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。山田委員何かございますか。

○山田委員

今のとおりだと思うのです。光村は、読むことを中心に話す・聞く、書くをまとめてあり、子どもたちが意欲を持って追究できるように工夫しています。そういう教材となっておりますので、光村がいいのではないかと思います。また、そういうことで、一般中学校の本は採用してきているわけですので、よろしいかと思います。

○委員長

国語につきましては、皆様から 38 の光村がいいのではないかとということなのですけれども、いかがでしょうか。それでは、国語につきましては、38 の光村を採択いたします。

では、続いて、書写についてお願いいたします。

○学校支援課長

書写につきましては、11 学図「中学校書写」、17 教出「中学書写」、38 光村「中学書写」の 3 種が答申されました。

11 学図は、原寸大手本以外の毛筆手本は解説とともに見開きページで掲載し、学習のポイントを分かりやすくしています。

17 教出は、選択課題や複数の補充教材が設定され、個人の技量や関心にあわせた学習が可能となっています。

38 光村は、薄墨手本に細かな技法やポイントを示し、記号や多色印刷で分かりやすくなっていると同時に、発展的な学習として先人の文字に学ぶページが設けられ、時代を超えて受け継がれた優れた文字が掲載されています。以上が書写についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。書写について、ご質問、ご意見をお願いいたします。

では私から一言。最近の子どもたちは、パソコンなどを使い始めると、文字を書くということになかなか疎くなってきているということから、先人の文字で学ぶということは、非常に時代を超えて受け継がれる、本当に優れた文字を継承しなければいけないと思いますので、38 の光村がいいのではないかとと思うのですが、いかがでしょうか。では、38 の光村を採択してよろしいでしょうか。では、書写につきましては、38 の光村を採択いたします。

続きまして、社会についてお願いします。

○学校支援課長

社会につきましましては、地理的分野、歴史的分野、公民的分野、地図の順でご説明いたします。まず、地理的分野につきましましては、2東書「新しい社会 地理」、17教出「中学社会 地理 地域に学ぶ」、46帝国「社会科 中学生の地理 世界のすがたと日本の国土」の3種が答申されました。

2東書は、見開きごとに確認のコーナーを設け、言語活動を通して学習したことを確認したり、さらに深めたりする課題を設定し、課題追究を通して、思考力・判断力・表現力等の育成を目指した構成となっています。

17教出は、見開きの左ページ欄外に学習課題を設定し、右ページ欄外にトライを設定し、その時間の学習内容を確認させ、基礎・基本の定着を図ることに重点を置いています。

46帝国は、見開きごとに学習課題を設定するとともに、「チェック&トライ」を設定し、その時間の学習内容を確認したり、調べたりしながら、基礎・基本の定着を図ることに重点を置いています。以上が地理的分野についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。地理的分野について、ご質問、ご意見をお願いいたします。

○佐藤委員

先ほどと同様の意見でございますけれども、やはりビジュアル的に見やすいものはいいということで、当然ながらワイド版がよろしいかと思えますし、それからリーダー養成には最終的には判断力をうまく育成させるという観点からも、私は東書がよろしいかと思えます。

○委員長

ほかにはございませんか。では、2の東京書籍がよいのではないかという意見がありましたので、採択してよろしいでしょうか。それでは、地理的分野は2の東書を採択いたします。

続きまして、歴史的分野について、お願いします。

○学校支援課長

歴史的分野につきましましては、2東書「新しい社会 歴史」、17教出「中学社会 歴史 未来をひらく」、116日文「中学社会 歴史的分野」の3種が答申されました。

2東書は、見開きごとに「確認」を、章末に「この時代の特色をとらえよう」を設定し、学習の振り返りにより、基礎・基本を定着させることと多様な言語活動を通して、思考力・判断力・表現力等を育成する構成となっています。

17教出は、学習の流れに則して、「読み解こう」のコーナーを設け、絵、地図、グラフなどの資料を読み取り、考察する活動

を組織し、読解力を育成することを意識した構成になっています。

116 日文は、見開きごとに学習課題を確かめよう。時代ごとに学習の活用を設定し、学習内容を確認したり、調べたりしながら、基礎・基本の定着を図ることに重点を置いています。以上が、歴史的分野についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございます。歴史的分野について、ご意見、ご質問をお願いいたします。

○山田委員

見開きのところで確認を、あるいは章末に時代の特色をとらえようとか、そういう設定をしてあって、基礎・基本の定着はもちろんですが、言語活動を活発にするということと結びついているのではないかと思います。そして、そのことによって、思考力・判断力・表現力等を育成するということをねらっているのだと思いますし、そのこと自体が高志中等教育学校のねらいでもあると。そういう意味で、東書でいいのではないかと思います。

○委員長

ありがとうございます。そのほか。

○齋藤委員

思考力・判断力の点についてなのですが、歴史については、今、いろいろな社会的な意見、投書、アンケートで一番述べられているのは身近な歴史です。端的に言えば、昭和に入ってからのも激動の中で、今、日本人がどういった気持ちで、これから未来に向けて歴史を踏まえて歩んでいくかというところが、一つ大きな観点であろうと思います。私の個人的な意見は、昭和に入ってからのも激動の時代は、事実をしっかりと列挙すること、述べること。そして、判断はこれからの未来のある子どもたちにどう受け止めてもらうかということを示すべきだろうと思っています。そういった観点から、歴史というのは、人類が生まれてから、ずっと長い歴史の中でありますが、今、最も関心が国民的にある部分から言えば、東書が量的な判断材料として示す資料、そのほか記述を含めて、非常に細かく記述していると思います。そういった意味で、私も東書でいいのではないかと思います。

○委員長

ありがとうございます。そのほかにありますか。では、2の東書がよいのではという意見が多数上がりました、採択してよろしいでしょうか。それでは、歴史的分野は、2の東書を採択いたします。

続きまして、公民的分野について、お願いします。

○学校支援課長

公民的分野につきましては、2東書「新しい社会 公民」、17

教出「中学社会 公民 とともに生きる」、46 帝国「社会科 中学生の公民 よりよい社会をめざして」の3種が答申されました。

2 東書は、「トライ」、「えんぴつマーク」、「深めよう」、「公民にチャレンジ」等の学習課題の掲示や作業、活動の紹介が多数あり、高度で深化を図る追究型の学習が展開できるようになっています。

17 教出は、「発展」、「トライ」、「読んで深く考えよう」などで、発展的な学習が多く設定されているとともに、章末に学習のまとめと表現があり、主に構造図による穴埋め問題で構成されています。

46 帝国は、各部にステップアップ9テーマ、持続可能な社会をめざして8テーマを設定し、学習を発展させる課題を設けています。以上が、公民的分野についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございます。公民的分野について、何かご意見、ご質問はありますか。

○山田委員

先ほどの歴史的分野のこととつながるわけですが、学習の振り返りというのでしょうか。最終段階で言語活動を盛んにして考えるということで、思考力・判断力・表現力等の育成を目指していくわけです。そういう意味では、東書がいいのではないかと思います。

○委員長

ありがとうございます。そのほかにありますか。山田委員から東書がいいのではないかという意見が出ていますが、それについていかがでしょうか。ほかに別なご意見はありますか。よろしいでしょうか。では、公民的分野は2の東書を採択いたします。

地図をお願いいたします。

○学校支援課長

地図につきましては、2 東書「新しい社会科地図」、46 帝国「中学校社会科地図」の2種が答申されました。

2 東書は、一般図や主題図に「注目したい記号」、「チャレンジ」、「読図の一步」などがあり、学習課題や注目すべき点が明確になっています。

46 帝国は、ワイド版、AB 版を効果的に活用し、幅広い範囲の地図を掲載するとともに、一般図の次にすぐ主題図が設定されており、関連づけながら調べ学習ができるように配列されています。以上が地図についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長	ありがとうございました。では、地図についてのご質問、ご意見をお願いいたします。
○佐藤教育委員	ビジュアル的に効果的ですので、帝国がよろしいと思います。
○委員長	いいでしょうか。では、46の帝国がよいのではないかと思いますけれども、よろしいでしょうか。それでは、46の帝国を採択いたします。 では、ここで少し休憩を挟みまして、また再開したいと思います。5分間、休憩いたします。 (休憩)
○委員長	数学についてよろしくお祈いします。
○学校支援課長	数学につきましては、2東書「新しい数学」、61啓林館「未来へひろがる数学」、116 日文「中学数学」の3種が答申されました。 2東書は、例の後に「たしかめ」を設けて、基礎・基本の定着を確認し、「もっと練習！」で習熟の早い生徒に対応するなど、習熟の違いに応じた学習ができるよう、問題の配列が工夫されています。 61 啓林館は、各節ごとに課題が疑問形で投げかけられ、その課題を解決することから学習が始まり、解決の過程において、仲間と考えを交流させたりする協同的な学習が展開しやすくなっています。 116 日文は、章末で基礎・基本の定着を図る繰り返し練習、知識技能を確かめる、A 問題、知識・技能を活用できるかを確かめる B 問題を設定しています。以上が数学についてです。ご審議をお願いいたします。
○委員長	ありがとうございました。この件につきまして、ご質問、ご意見はありますか。
○沢野委員	今のご説明にもあったのですが、啓林館の子どもが課題を持って仲間と協同しながら追究していく形で学習できるということは、高志中等教育学校の協同的な学習、あるいは追究型の学習というところでとても適していると思います。
○委員長	ありがとうございます。今ほど、高志中等教育学校を重視した教育の教本であるということで、61の啓林館がいいといわれているのですけれども、よろしいでしょうか。それでは、数学は61の啓林館を採択いたします。 続きまして、理科をお願いいたします。
○学校支援課長	理科につきましては、2東書「新しい科学」、11 学図「中学校科学」、61 啓林館「未来へひろがるサイエンス」の3種が答申さ

れました。

2 東書は、課題提示が明確であり、多くの観察・実験により、追究型の学習が進められるようになっていくとともに、発展的な内容が豊富であり、生徒の多様なニーズに対応できる構成になっています。

11 学図は、単元の最初にこれまでに学んできたことと、これから学ぶことの関連が示されているので、学習の見通しが持ちやすく、主体的な学習につながりやすくなっています。

61 啓林館は、単元の最初に「単元に入る前に」があり、既習内容を想起させ、単元末の「ひろがる世界」、「未来にひろがるサイエンス」などで、日常生活との関連を図り、学び続ける意欲を喚起しています。以上が理科についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。では、ご質問、ご意見はありますか。

○佐藤委員

全体的な特徴としても、中等教育という観点からいくと、やはり高校で学習する内容を意識した発展内容の記載が東書には見られますので、東書がよろしいのではないかと思います。

○委員長

よろしいでしょうか。では、東書がよいという意見がありましたので、理科は2の東書を採択いたします。

続きまして、音楽をお願いいたします。

○学校支援課長

音楽につきましては、音楽（一般）と音楽（器楽合奏）の順でご説明いたします。

まず、音楽（一般）につきましては、17 教出「中学音楽」、27 教芸「中学生の音楽」の2種が答申されました。

17 教出は、他の領域や分野の学習を活用したり、関連を図ったりすることにより、創作の学習が深まるような構成になっています。

27 教芸は、創作の基本的な学習段階を四つに分けて示し、それを一つずつクリアすることで、まとまりのあるものに仕上がるように工夫しています。以上が音楽（一般）についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。音楽（一般）について、ご質問、ご意見はございますでしょうか。では、高志中等教育の追究型学習にあっているというのが、17の教出ではないかと思えますけれども、いかがでしょうか。それでは、音楽（一般）は17の教出で採択いたします。

続きまして、音楽（器楽合奏）について、お願いいたします。



○学校支援課長

音楽（器楽合奏）につきましては、17 教出「中学器楽」、27 教芸「中学生の器楽」の2種が答申されました。

17 教出は、和楽器を中心に段階的、系統的に配列され、主体的学習を促し、学習の深まりに応じた発展的内容が適切に示されています。

27 教芸は、器楽を用いた教材を通しての共通事項に関連する学習が確実に行われるように、アンサンブルセミナーというコーナーを設けて、取り扱いの具体的な視点を示しています。以上が、音楽（器楽合奏）についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。音楽（器楽合奏）について、ご質問、ご意見をお願いいたします。この件は、教育出版の和楽器の持つ魅力的な可能性とか、メッセージの送っているようなページがあり、大変よいと思いますので、教育出版でいかがでしょうか。それでは、音楽（器楽合奏）は17の教出を採択いたします。

続きまして、美術をお願いいたします。

○学校支援課長

美術につきましては、9開隆堂「美術」、116 日文「美術」の2種が答申されました。

9開隆堂は、題材の目標とともに、制作方法や手順が示されているため、教科書の題材どおりに授業を展開するのに適しています。

116 日文は、写真がきれいで、作品の細部まで確認することができるため、生徒が自ら表現力を主体的に高めようとするきっかけとなるように工夫されています。以上が、美術についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

美術について、ご質問、ご意見をお願いいたします。

○佐藤委員

今までも言われているように、高志中等教育学校では、追究型の学習というものを重視しておりますので、そういうことからいくと、いわゆる日文のほうがいいのかと思います。

○委員長

それでは、日文がいいのではないかという追究型の高志中等教育のところでございますけれども、では116の日文でいかがでしょうか。それでは、美術は116の日文を採択いたします。

続きまして、保健体育をお願いいたします。

○学校支援課長

保健体育につきましては、4大日本「中学校保健体育」、224 学研「中学保健体育」の2種が答申されました。

4大日本は、見開きごとに自らの生活を振り返らせる「今日の学習課題」を示すとともに、「考えよう」を設定し、身近な生

活場面の考察や自ら考える主体的な学習を行い、実感を伴う理解が得られるように工夫しています。

224 学研は、見開きごとに「課題をつかむ」を示すとともに、考えたり、話し合ったり、実験したりするコーナーを設け、思考力・判断力・表現力等の育成を意図した構成になっています。以上が、保健体育についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。保健体育について、ご質問、ご意見はございますか。

○山田委員

大日本は学習して身につけたことを、さらに発展させたいという構成になっていることですので、子どもたちが自ら追究していくということには、適切な教科書ではないかと思えます。

○委員長

山田委員から、自らの生活を振り返って、自分の課題を見つけていくという考えづくりということで、大日本はいかがでしょうかということなのですけれども、どうでしょうか。それでは、保健体育は、4の大日本を採択いたします。

続きまして、技術家庭について、お願いいたします。

○学校支援課長

技術・家庭につきましては、技術分野、家庭分野の順にご説明いたします。

まず、技術分野につきましては、2 東書「新しい技術・家庭 技術分野」、9 開隆堂「技術・家庭（技術分野）」の2種が答申されました。

2 東書は、各編のはじめに学ぶことが整理されるとともに、見開きごとに目標が示されており、課題意識を持って、主体的に学習に取り組めるよう工夫されています。

9 開隆堂は、基礎的・基本的な知識や技術が確実に習得できるように、内容が系統的・発展的に整理されており、適宜学習を深めるためのクエスチョンマークの小課題が示されています。以上が、技術分野についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。技術分野についてのご質問、ご意見をお願いいたします。

○佐藤委員

リーダーシップを養成するということで、技術・家庭の分野で、習得した知識や技術を活用するために考えをまとめて、そしてそれを自分の考えとして表現して他者に伝えるということは、リーダーシップを養成するために重要なポイントでありますので、これをやっている東書が一番よろしいのではないかと思います。

○委員長	<p>今ほど、佐藤委員からリーダーシップの養成ということで、東書がそれに適しているのではないかということですが、それに対していかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、技術分野は2の東書を採択いたします。</p> <p>続きまして、家庭分野について、お願いいたします。</p>
○学校支援課長	<p>次に家庭分野につきましては、2東書「新しい技術・家庭 家庭分野」、9開隆堂「技術・家庭（家庭分野）」の2種が答申されました。</p> <p>2東書は、技術分野と同様、各編のはじめに学ぶことが整理されるとともに、見開きごとに目標が示されており、課題意識を持って主体的に学習に取り組めるよう、工夫されています。</p> <p>9開隆堂は、一貫して生活の自立に向けた内容構成になっているとともに、学習の目標が明示され、何を学ぶのかははっきりしていて、生徒が課題を持って学習に取り組めるよう、工夫されています。以上が家庭分野についてです。ご審議をお願いいたします。</p>
○委員長	<p>ありがとうございます。家庭分野についてのご質問、ご意見はございますでしょうか。</p>
○山田委員	<p>今までと同じように、子どもたちが自分たちで追究していけるような学習過程を東書では組んでいると。また、調べ学習のまとめ方を示して、言語活動が盛んになるようにしていると。そのことは子どもたちの発展的な学習につながるのだらうと思いますので、東書でよろしいのではないですか。</p>
○委員長	<p>山田委員から東書はどうだということなのですからけれども、いかがでしょうか。それでは、家庭分野は、2の東書を採択いたします。</p> <p>続きまして、英語をお願いいたします。</p>
○学校支援課長	<p>英語につきましては、2東書「NEW HORIZON」、15三省堂「NEW CROWN」、17教出「ONE WORLD」の3種が答申されました。</p> <p>2東書は、繰り返しとまとめを系統的に配置し、基礎・基本の定着を図りながら、4技能のコミュニケーション活動をバランスよく配置し、生徒の習熟に応じた学習が可能になっています。</p> <p>15三省堂は、3年間を通じて4技能を総合的にバランスよく育成できるように、言語活動が配置され、4技能の統合タスクも随所に配置されています。また、「この課で学ぶべきこと」、「まとめ」、「付録」などを適宜配置し、学び方を身につけたり、自</p>

主的に学ぶ態度を育てる Lesson 構成になっています。

17 教出は、最終的な統合的言語活動である Project につながるように、習得から活用したり、活用を意識した構成になっているとともに、Project を使い、課題解決型の学習を行うことができるように工夫されています。以上が英語についてです。ご審議をお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。英語について、ご意見、ご質問はございますでしょうか。

○山田委員

先ほどもお話ししましたが、三省堂は各分野がバランスよく組み合わせられて構成されていることと、学校の研修でも推薦しているということで、高志中等教育学校でもいいのではないかと思います。

○委員長

山田委員から、何度も申し上げているように、総合的にバランスよく構成されている言語学習が配置されているということで、三省堂がいいのではないかという意見が出されておりますけれども、いかがでしょうか。それでは、英語は 15 の三省堂を採択いたします。

それでは、議案第 13 号をすべて承認していただいでよろしいでしょうか。ありがとうございました。

続きまして、議案第 14 号、学校支援課をお願いいたします。

○学校支援課長

平成 24 年度使用新潟市立中等教育学校後期課程用教科用図書についてです。市立高志中等教育学校後期課程用教科用図書採択に関する基本方針に基づいて、高志中等教育学校が選定した結果について、平成 24 年度使用新潟市立中等教育学校後期課程用教科用図書選定結果により説明いたします。

なお、中等教育学校後期課程におきましては、平成 24 年度から新学習指導要領の数学と理科が先行実施されていることに伴いまして、来年度 4 年生が使用する 2 教科については、新教育課程用の教科書から選定することとなります。

資料の 201 ページは、4 月の教育委員会で承認いただきました採択に関する基本方針です。市立高志中等教育学校の教科書の採択にあたりましては、その教育課程に則して教職員の意見や希望が反映されるようにし、校長による選定結果を尊重して採択していただければと考えております。

ここで、新潟市立高志中等教育学校の教育目標及び教育内容について、説明いたします。教育目標は、知性と人間性にあふれ、高い志を持つ次代のリーダーとなる生徒を育成することです。この教育目標を達成するため、教育内容として三つ

の教育方針を立てています。その三つの教育方針のうちの一つは、知性を高めるために、6年間の連続性を生かした、質と量の調和の取れた学習指導を行うことでもあります。この方針の実現のための具体的方策として、後期課程におきましては、4年生で文系、理系の大学のどちらでも進めるように、各科目を幅広く学習し、5、6年生では文系、理系に分かれて学習し、国公立大学への進学などに対応することとしております。

このことにより、後期課程における教科書選定にあたりましては、前期課程での学習成果を基に、国公立大学への進学など、進路希望実現のためにふさわしい教科書という観点で選定されております。それでは、後期課程の選定結果について申し上げます。

選定結果は、202 ページからでございます。203 ページをご覧ください。203 ページは先ほど申し上げました、4年生が使用する数学と理科の教科書で、新しい教育課程用の教科書となっております。次に 204 ページをご覧ください。ここは4年生の数学、理科以外の教科書で現行の教育課程用の教科書となっております。205 ページから 207 ページをご覧ください。ここは4年生が使用します教科書の選定理由が載っております。主な教科書について、簡単に説明いたします。

国語総合は、所収作品のバランスがよく、生徒の共感性が高い作品や、センター試験レベルの評論が多く所収されていることから、当該教科書が選定されました。世界史 B は、他の教科書に比べ、詳しい事項説明があり、最新の歴史学の成果が盛り込まれていることから、当該教科書が選定されました。数学 I については、難易度が適当で、習熟度に合わせて問題補充もしやすく、6年間の教育課程の連続性を生かすことができる当該教科書が選定されました。

物理基礎、科学基礎、生物基礎については、前期課程との接続及び5年生以降の学習に備えた基礎固めに最も適していることから、当該教科書が選定されました。英語 I については、現在、使用している教科書との接続及び英語 II に向けた基礎・基本の充実という観点から、当該教科書が選定されました。OC I については、使いやすく基礎から発展まで幅広く扱われていることから、当該教科書が選定されました。

そのほかの教科書の選定理由をご覧のとおりであります。ご審議、よろしく願いいたします。

ありがとうございました。この件につきまして、ご質問、ご

○委員長

意見がございましたら、お願いいたします。ないようであれば、新潟市立高志中等教育学校の教育目標や教育内容に一致しているということで、推薦どおりでよいと思われそうですが、いかがでしょうか。それでは、ここに記載されているとおり、採択いたします。ありがとうございました。

続きまして、議案第 15 号、学校支援課お願いいたします。

#### ○学校支援課長

平成 24 年度使用新潟市立高等学校教科用図書につきまして、市立高等学校用教科用図書採択に関する基本方針に基づいて、各高等学校が選定した結果について、平成 24 年度使用新潟市立高等学校用教科用図書選定結果により、説明いたします。

なお、高等学校におきましては、平成 24 年度入学生から新学習指導要領の数学と理科が先行実施されることに伴いまして、来年度入学する 1 年生が使用する 2 教科については、新教育課程用教科書から選定することとなります。

選定資料の 209 ページは、4 月の教育委員会にて承認いただきました採択に関する基本方針です。市立高等学校の教科書の採択にあたりましては、各学校がそれぞれの教育課程に則して、教職員の意見や希望が反映されるようにし、校長による選定結果を尊重して採択していただければと考えております。

それでは、万代高等学校の選定結果について申し上げます。万代高等学校につきましては、210 ページからでございます。211 ページをご覧ください。211 ページは、先ほど申し上げました、1 年生が使用する数学と理科の教科書で、新しい教育課程用の教科書となっております。

次に、212 ページから 215 ページをご覧ください。ここは 1 年生の数学、理科以外の教科書及び 2 年生以上のすべての教科書で、現行の教育課程用の教科書となっております。

216 ページをご覧ください。ここは 1 年生が使用します数学 2 科目と理科 2 科目の教科書の選定理由を載せております。

217 ページをご覧ください。ここは 1 年生の数学、理科以外の教科書及び 2 学年以上で使用する教科書で、平成 23 年度と異なる教科書を選定した教科書の選定理由を載せております。

続きまして、高志高等学校の選定結果について、申し上げます。高志高等学校につきましては、218 ページからでございます。なお、平成 24 年度高志高等学校は、3 年生のみとなりますので、教科書はすべて 3 年生が使用する教科書で、現行の教育課程用の教科書となっております。

219 ページをご覧ください。ここにあるのが 3 年生の使用す

るすべての教科書です。また、すべて昨年度と同じ教科書の選定となっております。

続きまして、明鏡高等学校の選定結果について申し上げます。明鏡高等学校につきましては、220 ページからでございます。221 ページをご覧ください。221 ページは1年生が使用する数学と理科の教科書で、新しい教育課程用の教科書となっております。

次に、222 ページから 226 ページをご覧ください。ここは1年生の数学、理科以外の教科書及び2年生以上のすべての教科書で、現行の教育課程用の教科書となっております。

227 ページ及び 228 ページをご覧ください。ここは1年生が使用します数学2科目と理科2科目の教科書の選定理由を載せております。これ以外の教科書は、すべて昨年度と同じ教科書の選定となっております。ご審議、よろしくお願いいたします。

○委員長

ありがとうございます。これにつきまして、ご意見、ご質問はございますでしょうか。ないようであれば、市立高等学校の教科用図書につきましては、各学校のそれぞれの教育課程に則して、教職員の意見や希望が反映され、また校長による選定結果が尊重されているということで、これを推薦していきたいと思いますが、いかがでしょうか。それでは、ここに記載されているように採択いたします。

議案第14号、議案第15号をあわせてご承認いただけますでしょうか。ありがとうございます。

第4 次回日程

○委員長

次回の日程について説明を求める。

○教育総務課長

8月定例会は、8月24日（水）午後3時30分から、9月定例会は9月6日（火）午後3時30分からでお願いしたい。

第5 協議会

○委員長

引き続き、公開の協議会へ移ります。では、説明をお願いいたします。

○教育総務課長

教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価についてご説明いたしますので、資料230ページをお開きください。平成19年6月の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、教育委員会は事務の執行状況に関する点検・評価を実施し、その報告書を議会に提出することが義務づけられており、今年度で4回目となります。昨年同様、点検・評価報告書を9月市議会に提出したいと考えておりますので、本日の協議会において、内容等について、ご協議いただきたいと思います。

なお、本日の協議内容を踏まえ、8月の教育委員会定例会で付議事件としてご審議いただく予定でございます。

次の231ページの目次で全体の構成をご覧いただきたいと思いますが、基本的には昨年度までと同様の柱立てとしております。Ⅰの「はじめに」では、この報告書の位置づけや概要などを記載しており、Ⅱ「教育委員会の活動状況について」では、教育委員会会議の開催状況や、平成22年度の主な取組と成果などについて記載しております。また、Ⅲ「新潟市教育ビジョンの施策評価について」では、個別分野の施策評価として、平成22年度の実施状況や進捗状況などについて、点検・評価を実施した内容となっております。

それでは、報告書の内容についてご説明いたしますので、233ページをお開きください。

Ⅱ「教育委員会の活動状況について」でございますが、はじめに教育委員会会議の定例会及び臨時会について、会議ごとに主な議案や報告案件などを記載しており、ページの中ほどでは会議の公開状況などについて、記載しております。

続いて、234ページでは、「教育委員会会議以外の活動状況」ということで、教育委員の市内視察や県外視察の状況、市長、副市長や自治協議会委員との懇談会開催状況について、次の235ページでは、指定都市教育委員・教育長協議会や市町村教育委員会連合会などへの参加状況、並びにマイスター養成塾や学校周年事業等への教育委員の出席状況などを記載しております。

次の236ページは、平成22年度の主な取組と成果として、三つの項目をトピック的に取り上げております。一つ目は、平成22年度から開始いたしました、本市独自の単元評価問題のWeb配信など、基礎学力向上の取組について記載しております。

二つ目では、家庭や地域の教育力向上に向けた取組や「公民館改革宣言」について。

三つ目は、本市教育委員会の重点的な施策である、地域と学校パートナーシップの実施校の拡大や学校支援ボランティアの活動状況について記載しております。

続きまして、237ページでございますが、ここからは教育ビジョンの施策評価でございます。237ページは、平成22年度の施策評価の一覧になっておりますが、まず一覧表の上の欄外部分をご覧いただきたいと思っております。字が小さくなっておりますけれども、評価は1から4までの数値で示されており、指標どおり達成した場合は3となります。平成22年度は数値評価がで



きた 60 施策の評価の平均が 3.29。そのうち、網掛け部分の五つの学びの扉に関する 13 施策の平均は 3.13 でございました。

評価の分布を見てみますと、指標を上回って達成した 4 が 50.4%、指標どおり達成した 3 が 20.4%で、3 以上が 70.8%となっており、個々の施策を見ますと指標に達していないものもございますが、教育ビジョン後期実施計画の初年度は、施策全体としては順調に進捗してきていると思っております。

次に、主な施策事業として、本報告書には、学びの扉に該当する施策など、重点的に取組を進めていました施策について、この一覧表に星印で示しました 14 の施策を取り上げ、掲載してございます。時間の関係もございますので、その中でも主な施策について、ご説明させていただきます。

まず、238 ページの上段、基本施策 1 の「確かな学力の向上」の施策、(3)「基礎・基本を身に付ける教育の推進」でございませう。こちらの評価は、2.8 と指標を少し下回りました。小学校 6 年の国語で全国平均を上回った児童の割合が、65.6%と平成 21 年度を大きく上回り 4 となっておりますが、小 6 算数、中 3 国語では下回り 2 となっております。平成 21 年度より、小学校算数の基礎的な知識・技能の習得状況が不十分という学力実態が明らかになっており、特に算数・数学の学力向上への施策が必要となっております。平成 22 年度から算数・数学の基礎的知識・技能の習得状況を把握する単元評価問題の Web 配信を始めており、それを活用し、個別指導や補充指導のあり方に関する情報を学校に提供するなどして、対策を始めております。

次に、その下の基本施策 2 の (2)「体験活動・ボランティア活動の支援」でございませうが、施策評価は 1.5 となっております。子ども農山漁村交流プロジェクト参加校の割合では、評価は 2 でございませうが、95.6%の学校で事業に取り組み、ほぼ目標どおりの結果となっております。

一方で、ジュニアリーダー育成講座の修了者数は 16 人で、評価は 1 となりました。ジュニアリーダー育成につきましては、昨年 8 月に中央区で育成講座を実施いたしましたが、中学校との日程調整が難航し、目標に達することができませんでした。今年度は、地域や学校と連携調整をさらに進め、地域活動等に参加するジュニアリーダーの育成に取り組むこととしております。

次に、239 ページ中段、2- (8)「食育の推進」でございませうが、施策評価は 2.5 となりました。指標 4 の肥満傾向の児童

生徒の割合が 7.6%と大きく減少し4となりましたが、指標 1、指標 2、指標 3は目標に達せず 2 という評価でございました。しかし、児童生徒の朝食欠食率については、昨年度から 0.9 ポイント向上し、給食の残食料の減少の割合も 0.5 ポイント向上しております。今後も、子どもたちの食事や栄養に関する意識を高めるため、食に関する指導の充実、推進に取り組んでまいります。

次に、その下の基本施策 4－(2)「特別支援教育のサポート体制の推進」でございますが、指標 1 の特別支援教育サポートセンターによる校内委員会支援件数、指標 2 の特別支援教育ボランティアの登録者数とともに目標値を大幅に上回り、施策評価は4となりました。また、教育関係者、関係機関、一般市民を対象に特別支援教育にかかわる理解啓発講座を開催しております。今後とも、特別支援教育サポートセンターを核として、学校や保護者の相談支援に力を入れるとともに、市民への啓発活動を充実させることで、特別支援教育サポート体制の推進を図ってまいります。

次に、240 ページの中段、基本施策 7 の「家庭教育の充実と子育て支援」でございますが、これは後期から学びの扉に加わった施策です。(1)の「家庭教育充実の支援」の施策評価は 3.3 となりました。指標 2 の各種家庭教育学級の実施か所数や、指標 3 のプレママ学級の実施か所数は目標を上回っております。指標 1 の子育て学習出前講座の実施か所数は2となりましたが、小学校 99 校、中学校 7 校の計 106 校で行われており、今後も校長会等と連携を図ることで実施校数を増やしていきたいと考えております。

次に 241 ページ中段、8－(3)「地域における生涯学習活動への支援」でございますが、この施策は後期から新たに学びの扉に加えられたもので、施策評価は3となっております。指標 1 の地域学関連事業の参加者数は昨年度より若干増えているものの、目標を少し下回り、評価は2となっておりますが、指標 2 の公民館と連携事業を実施するコミュニティ協議会のか所数では、41 のコミュニティ協議会で公民館との連携事業を実施しており、目標を大きく上回っております。昨年 9 月に行った公民館改革宣言に基づき、今後も地域と連携した事業の展開に力を入れていきます。

次に、その下、基本施策 10 の「学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり」の(1)「地域と共に歩む学校

づくりの推進」でございますが、評価は指標を少し上回る 3.3 となりました。地域と学校パートナーシップ事業では、新規校 41 校を加えて、計 105 校で事業に取り組み、ひらかれた学校づくり、地域とともに歩む学校づくりを推進してきました。また、ふれあいスクール事業では、新たに 4 校開設し、47 校で事業を実施してきました。平成 23 年度も新たに 4 校の開設を予定しており、地域の財産である学校を中心に地域内のさまざまな人や活動をつなぐ環境整備に努めることで、今後も地域の教育力の醸成を図ってまいります。

次に、242 ページ下段、13- (2)「教職員への支援体制の充実」でございますが、これも後期から学びの扉に入ったものでございまして、施策評価は 3.3 となりました。支援を要する教職員への研修や多忙化解消への取り組みの成果が現れ、指標 1 の支援を要する教職員の人数、指標 3 の放課後に子どもと接する時間が 1 週間あたり 5 時間以上の教員の割合では、目標を大きく上回り 4 となりました。指標 2 の教職員の病気休暇・休職者の人数が 2 となっており、病気休暇者、休職者の数は昨年度と同数ということで減ってはおりませんが、増加には歯止めがかかってきている状況でございます。今後も、ヘルスケアシステムによる研修会の実施と予防的研修の充実に取り組んでまいります。

また、最後になりますが、243 ページから 245 ページは教育ビジョン推進委員からの主な意見・要望とそれに対する教育委員会の対応について、まとめたものでございます。今後も、こうした外部委員からの知見を生かしながら、教育ビジョンの実現に向けて着実な取り組みを進めていきたいと思っております。以上、教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価の報告書案について、ご説明させていただきました。よろしく願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。これにつきまして、何かご質問等ございますでしょうか。

○佐藤委員

238 ページのところにジュニアリーダー育成講座とありますが、それは中学校との日程調整が難航してと書いてあるのですが、これは今後解消できるのかということと、関連でジュニアリーダー育成にかかわって、ジュニアレスキューのようなものをしっかりやってもらおうという、ジュニアレスキューとはどういうことなのかを説明していただけますか。

○生涯学習センター

1 の評価でございます。具体的には、二葉中学校と連携して、

次長	<p>昨年度実施しました。参加を呼びかけて、コミュニティ協議会とも連携したのですけれども、学校側とこちらサイドの日程調整の中で、実は新潟まつりの花火の日とぶつかってしまいまして、この日しかできなかつたものですから、参加者が減るといふのは当然の結果でございまして、今後は、こういうことがないように日程調整しております。</p> <p>ジュニアレスキューについては、ビジョンの推進委員からそういうお話がありましたが、いざというときいつでも回避できるような訓練もしたほうがいいのではないかとか、そういった意見だったように記憶しております。</p>
○佐藤委員	<p>ジュニアレスキューとは何ですかということなのです。ボーイスカウトなどでよくケガをしたときに包帯を巻く方法だとか、そういうことをやっているのですか。</p>
○教育総務課長	<p>防災訓練や何かのとき、中学生なども一緒になって訓練をします。</p>
○佐藤委員	<p>ジュニアリーダーもリーダーの育成のカリキュラムの中にジュニアレスキューという、ケガしたときにしばったり、ねんざしたときに包帯を巻くとか、そういうことをしっかりやらしてもらいたいという要望なのですか。これは専門家でないとできないですよ。ただ単に載せるだけではなくて、これはどういうことかということをごきちんとして掲載すべきだと思います。</p>
○鈴木教育長	<p>これは森先生ですか。</p>
○生涯学習センター 次長	<p>いえ、川端先生です。</p> <p>発言の趣旨としては、安全教育との関連でというような発言の趣旨だったと思います。</p>
○佐藤委員	<p>例えば具体的には何ですか。</p>
○鈴木教育長	<p>川端委員が言ったと記述するのであれば、ジュニアレスキューの中身を少し注釈して書いておいたほうがいいのではないですか。例えば、こういったことをやっているような。</p>
○佐藤委員	<p>報告書はそっくりそのまま議会に提出するのでしょうか。</p>
○教育総務課長	<p>そうです。</p>
○佐藤委員	<p>教育ビジョン推進委員会の意見と要望と教育委員会の対応ですので、書いていながら対応していないではないかと思うわけです。</p>
○委員長	<p>内容を聞いて、書いていただく形で、分かりやすく。</p>
○教育総務課長	<p>少し分かりやすいようにしようと思います。</p>
○委員長	<p>ほかに何かありませんか。山田委員、何かありますか。</p>
○山田委員	<p>基礎・基本を身に付ける教育の推進が2とか、この数字で見</p>

ると、一生懸命やっっているが、こういった結果でということになります。学校はがっかりするのではないかと思うのですが、これは昨年度と比べて下がったということですか。どういう意味ですか。

○教育総務課長

指標の目標が昨年度と同じレベルを目標にしておりまして、目標にまで達成していないので2という評価となります。

○山田委員

そうすると、目標設定ですね。

○教育総務課長

例えば、指標2-iiの中3の数学などですと、現状が53.4ですけれども、平成24年度には55になっていますので、今ですと53.7で3ですけれども、これが平成24年度で53.7だと目標に達しないので2になるというような形になります。

○山田委員

こうやって数字で出されると、単純にその数字で評価しますので、少しよく説明しないと、学力向上をうたっているが下がっているのは一体どういうことなのかということになるのではないかと思うのです。

○委員長

少し理解しにくいかもしれませんね。

○山田委員

多分食育の推進などもそうなのでしょう。目標との絡みでこういう数字が出ているけれども、食育の推進は一生懸命やってきたのではないですか。

○教育総務課長

欠食率にしろ、給食の残量にしろ、よくはなってきたのですが、目標に達していないものですから、評価が2ということですよ。

○委員長

目標値が高いとなかなかですね。

○山田委員

毎回、これを言われるのですよね。

○鈴木教育長

ただ、後期に目標を設定し直しましたので、個々で見ていると目標の設定が妥当だったのかどうかということは、常にあるわけですが、例えば最初のページの全体で見ていただくと、3.29と出ています。そうすると、個々はあれでも、全体をならしていけばといった見方をしていただきたいと思います。個々の目標設定をもう一回見直そうというような話をしますと、後期を通じての全体の傾向もまた崩れてきますので、一旦設定したものは、個々では不都合があっても、そのまま後期は後期でいこうということが基本的な方針でございます。

○山田委員

全体を通して見てほしいということについては、説明するときにそういう説明をしないと、数字だけ見れば何か怠けているみたいに思われます。

○教育総務課長

今回、時間の関係で悪いところを中心に説明させていただきましたが、今後はいいところをもっと説明したいと思います。

